



【本号のトピックス】

日本老年歯科医学会第28回学術大会報告／委員会だより
(H28老健事業特任, 倫理審査)／歯科衛生士関連委員会主催セミナー
開催報告／国際学会参加報告／支部だより／学会だより

日本老年歯科医学会第28回学術大会が盛会裡に終了！

大神浩一郎

東京歯科大学老年歯科補綴学講座

さる2017年6月14日から16日の3日間、名古屋国際会議場にて、「治し支える歯科医療」というメインタイトルで第28回日本老年歯科医学会総会・学術大会が、第30回日本老年学会（総会）と同時開催されました。

今回は特別講演、教育講演以外にも、シンポジウムは7演題、さらに若い会員などのために3つの入門セミナーを開催しました。いずれの演題も素晴らしく、非常に充実した内容でありました。また7学会の合同学会らしく、17の合同シンポジウムも開催され、そのうち本学会から12のシンポジウムに演者が参加し、たいへん好評でした。さらに合同ポスター発表では、本学会から3つのファイナリスト演題がエントリーされ、活発な意見交換がなされました。

日本老年学会においては、初日には特別講演1「プラチナ社会の実現と活力ある長寿社会」というタイトルで、小宮山 宏先生（株式会社三菱総合研究所）がご講演されました。「これまでに人間はさまざまな努力をして、モノも情報も手に入り、移動も長生きもできるような豊かさを手に入れてきました。このような、量的な豊かさに

関しては、現代ではほぼ飽和状態になってきたと考えられ、これから人間が求めるのは質的な豊かさになってくると思われます。現在は労働者不足などといわれることもありますが、高齢者には65歳未満の人と比べても遜色なく元気である人も多いのが現状です。適性と能力と希望に応じて自由に働くことのできるような参加型社会をつくるのが、活力ある長寿社会をつくっていくことになる」という内容で、たいへん好評でした。

続いて、大島伸一先生が「『治し支える医療』へ向けて、医学と社会の大転換を」と題した日本老年学会総会会長講演を行い、最新の診療技術を追うだけでなく、高齢患者を支えるシステムづくりを早期に行わなければならないという、今回の大会にふさわしい内容でした。

第28回日本老年歯科医学会総会・学術大会は、最終的に過去最高の1,900人を超える方にご参加いただきました。誠にありがとうございました。

最後になりましたが、ご参加、ご協力いただきました先生方に厚く御礼申し上げますとともに、会場の混雑などでご不便をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

学術大会スナップ（その1）



日本老年学会総会における総会会長および7学会の大会長一同



櫻井 薫理事長と特別講演の演者 Cohen 先生



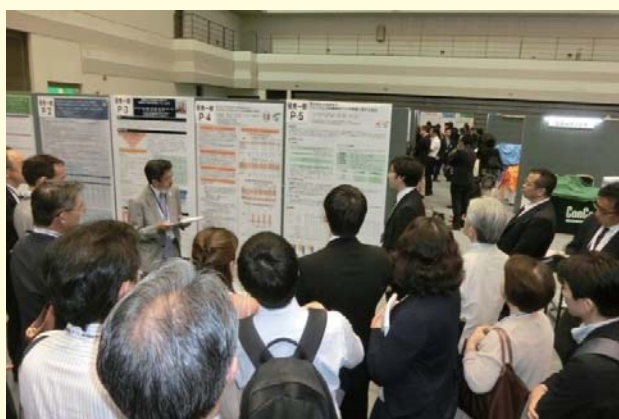
羽村 章副理事長と学術用語委員会シンポジウムの演者の先生方



櫻井 薫理事長と学術委員会シンポジウムの演者の先生方



支部組織・地域保健医療福祉検討委員会シンポジウムでの活発な質疑応答の様子



熱気あふれるポスター討論の様子

【学術用語委員会シンポジウムについて】

大会2日目、学術用語委員会主催にて、「歯科医学用語を考えるー『口腔ケア』って何ですか？研究者、医療者、行政、市民の立場から」というテーマでシンポジウムが開催されました。

まず、真木吉信委員長から「老年歯科医学用語辞典」編纂の歴史、「口腔ケア」という用語の問題点についてご講演いただいた後、本学会の編集委員および委員長を長きにわたり務められている深山治久先生より、学会発表や論文投稿における用語選択時の注意すべき点について、三浦宏子先生からは、行政の立場から今後の関連施策の動向を踏まえた新しい制度や用語の活用について、喜島智香子先生からは、患者さんが「医学用語についてどのように考えているのか」についてデータを提示してご講演いただきました。その後のパネルディスカッションでは各演者に対して多くの質問がなされ、熱い討論が行われました。（大神浩一郎）

【支部組織・地域保健医療福祉検討委員会シンポジウム開催報告】

大会3日目、支部組織・地域保健医療福祉検討委員会の初めての試みとして、「地域歯科医療から学会の役割を再考する」をテーマにシンポジウムを開催しました。支部

長会併催とし、佐々木 健先生（北海道上川総合振興局保健環境部保健行政室）、山崎猛男先生（宮城県歯科医師会）、高田 靖先生（東京都豊島区歯科医師会）、大西啓之先生（滋賀県歯科医師会）より、地域における取り組みについてご講演いただき、地域歯科医療の今後のあり方や学会との連携について、活発なディスカッションが行われました。（小原由紀）

【学術委員会シンポジウム「『口腔機能低下症』について理解を深めよう」開催報告】

2016年に学術委員会から発表された「口腔機能低下症」への理解を深めるために、学術委員会の水口俊介先生、松尾浩一郎先生が座長を務め、上田貴之先生、山本 健先生、池邊一典先生、古屋純一先生、津賀一弘先生、永尾 寛先生、田村文誉先生が演者として、口腔機能低下症の下位症状の診断について解説をしました。会場からは多くの質問が寄せられ、この新しい病名への関心の高さがうかがえました。この病名は現状のエビデンスを考慮したうえでのたたき台です。会員の皆様が、この診断法を用いて多くの研究を行い、エビデンスを構築し、より良い方向へ改善されていくことを望みます。

（金澤 学）